

[8]えびの市小学校体育連盟

(学校数 5校 児童数 859人)

I 年間事業

期 日	曜	内 容	会場
6月 16日	木	・役員選出 ・事業計画 ・水泳記録会について ・研究計画	飯野小学校
8月 25日	木	・水泳記録会反省 ・陸上記録会について ・研究推進	飯野小学校
12月13日	火	・陸上記録会反省 ・研究推進 ・次年度の方向性について	飯野小学校
2月下旬		・年間活動のまとめ ・会計報告 ・次年度の引き継ぎ資料作成	飯野小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 令和4年度えびの市小学校水泳記録会 (2) 実施期間 令和4年7月
 (3) 会 場 えびの市内各小学校プール (4) 出場者 えびの市内小学校 5.6年生
 (5) 実施種目 ※すべての種目「飛び込みなし」

	5年生競技	6年生競技
	種 目	種 目
男子	25m自由形 25m平泳ぎ	25・50m自由形 25・50m平泳ぎ
女子	5年女子25m自由形 25m平泳ぎ	25・50m自由形 25・50m平泳ぎ
リレー	学校対抗100mリレー	6年男子100mリレー 6年女子100mリレー

- (6) 日程 各学校で記録会を設定し実施する。
 (7) 表彰 各個人種目、リレー種目3位まで入賞とする。
 (8) 反省
 ○ 感染症予防の観点から、今年度も各学校での記録会となった。今年度は、スピード(タイム)だけでなく距離も部(25m泳力)も新たに設定したことで、個々の目標に応じた指導を展開することができ、児童一人一人に達成感を味わわせることができた。
 ○ 昨年度の反省を生かし、泳法違反者等について全体での共通理解を行ったうえで、各校で実施できた。また、来年度も感染症予防の観点から本年度と同様に記録会になる可能性もあるので、来年度に向けての課題や共通事項等を確認する必要がある。

2 陸上大会

- (1) 大会名 令和4年度えびの市小学校陸上記録会 (2) 実施期間 令和4年10月・11月
 (3) 会 場 えびの市内各小学校運動場 (4) 出場者 えびの市内小学校 5.6年生
 (5) 実施種目 50mハードル走。他の競技については、各学校の判断で実施する。
 (6) 日 程 各学校で、ハードル走のみ記録会を設定し実施する。
 (7) 表 彰 50mハードル走のみ、各学年3位まで入賞とする。
 (8) 反 省
 ○ 修学旅行や宿泊学習などの学校行事と同じ時期で、担当教員の負担が大きくなった。
 ○ 50mハードル走のみの実施は、どの学校も実施しやすかった反面、えびの市で開催するのであれば、種目を限定して、50mハードル走以外も実施するべきという意見もあった。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

わかる・できる喜びを味わい、進んで運動する体育科学学習の在り方
～児童が主体的に運動するための指導方法の工夫を通して～

2 研究目標

- 児童が仲間や学習に主体的にかかわり、運動の楽しさや喜びを味わいながら進んで運動しようとする体育科学学習の指導方法を追求する。

3 研究仮説

- 体育の授業において、一人一台のタブレット端末を主とした ICT の積極的な活用やワークシート等の工夫を行えば、児童が仲間や学習に主体的にかかわり、運動の技能を高め、楽しさや喜びを味わいながら進んで運動することができるであろう。

4 研究計画

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
研究内容	○ アンケート結果をもとに、授業づくりのための実践及び検証	○ 指導法の周知及び幅広い実践	○ 指導方法の実践（陸上運動・器械運動）	○ 個人用タブレット端末の活用	○ 個人用タブレット端末やワークシートの効果的な活用

5 研究の実際

えびの市内では、令和3年度4月より全校児童が一人一台のタブレット端末を活用できる環境が整った。タブレット端末を活用し始めて2年目の本年度もタブレット端末やワークシート等のより効果的な活用の在り方を実践的に研究することにした。

(1) 参考資料提示のツールとしてのタブレット端末の活用

体育の学習では、児童が取り組む技や競技についてイメージを持つことは重要である。そこで、様々な単元で参考資料提示のツールとしてタブレット端末を活用することにした。

① ゴール型ゲームフラッグフットボールの実践

児童が初めて学習するフラッグフットボールのルールや練習方法などの理解を促すために、フラッグフットボール協会作成の資料を提示した。児童が初めて学習する競技だったが、児童の「やりたいという気持ちになった。」「どんな風に動けばいいのかが分かった。」



【図1 フラッグフットボール資料】



【図2 フラッグフットボール資料】

などの意見から、児童の学習意欲や競技の理解につながったことが分かる。また、資料映像の子どもたちと自分たちの活動を比較しながら学習を深めていく姿も見られた。

② 器械運動(鉄棒運動)の実践

鉄棒運動の技能向上のための資料として、動画の視聴(文部科学省「小学校中学年(鉄棒運動)」 / NHK for school (はりきり体育ノ介))を行った。視覚的に、手本と自分の実技を比べることで動きのポイントを意識しながら自分の課題を見つけることができた。また、自分の目標をもち、児童が進んで運動しようとする姿も見



【資料映像を視聴する児童】

られるようになった。さらに、できるようになるためのコツを自分たちの言葉で表現し、共有することで学級全体の技能の向上につなげることができた。

種別	種別	種別
逆上がり 足をまげる けるあとはまど少し前 体小さくする	逆上がり 補助板あり ・腰 少し曲げる ・おなかを少し鉄棒に近づける ・足を曲げる ・真下が少しま 踏み切る	逆上がり (補助板あり) できた ・腰少し曲げる ・おなかを少し鉄棒に近づける ・足を曲げる ・真下が少しま 踏み切る ・踏み切る足鉄棒がおなかに当たるまで振り上げ続ける
逆上がり (補助板あり) ・腰～少し曲げる ・体～丸くなる ・足～少し曲げる ・真下が少し前で踏み切る ・踏み切る足鉄棒がおなかに当たるまで振り上げ続ける	(逆上がり) 補助板なし できた ・腰～曲げる ・体～小さくする ・足～曲げて勢いをつける 振り上げる足は、鉄棒がおなかに当たるまで振り上げる	逆上がり (補助板あり) できた ・腰少し曲げる ・おなかを少し鉄棒に近づける ・足を曲げる ・真下が少しま 踏み切る ・踏み切る足鉄棒がおなかに当たるまで振り上げ続ける

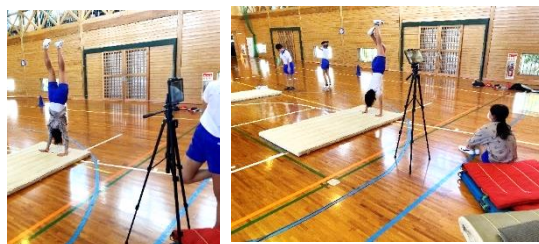
【ロイノートで共有したできるためのコツ】

(2) 技能の変容の自覚を図るためのタブレット端末やワークシートの活用

タブレット端末が個人の学習ツールとして利用できるようになったことで、個人の学習結果の蓄積ができるようになった。体育学習においても単元を通して活用することができ、毎時間の学習の様子を撮影し個人のタブレット端末に保存させた。そうすることで、毎時間の変化を比較することができ、自己の技能の高まりを自覚することができるようになった。また、そうした自己の変容を視覚的に理解することができたことで、自己の課題を発見し学習に対する意欲が高まり、さらなる技能の向上を目指して運動に取り組む姿が見られるようになった。

① 器械運動(マット運動)の実践

器械運動の単元において、自分の実技を撮影し視覚的に確認することで、自己の課題・改善点を見つけ、技能の向上に活かすことができた。また、「追っかけ再生」の機能を用いることで、自己の変容や改善点をすぐに認知することができ、「できるようになったと思っていた技も、動画で見ると、ひざが曲がっていたり、腰が曲がっていたりしていることに気付くことができた。」「技の改善点に気付いてすぐに試すことができたので、側転がどんどんきれいになりました。」など、学習意欲や技能の向上につながったと考えられる。



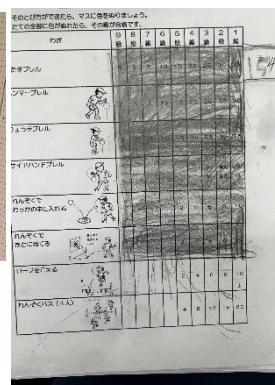
【動画撮影後、自己の変容を確認する児童】

② ネット型ボール運動プレルボールの実践

中学年のネット型ボール運動の単元で、達成度が分かる学習カード「プレルボール達人カード」を活用して、プレルボールに必要な技能の向上を図った。毎時間の初めの10分間で「プレルボール達人カードの活動の時間を設定して学習に取り組んだ。カードがあることで「1級目指してがんばるぞ!」、「今日はハンマープレルで〇回いくぞ!」等、意欲的に取り組む様子がみられた。また、カードに色を塗ることで、視覚的に自分の技術の向上に気付くことができていた。



【技能向上のための運動に取り組む児童】



【児童のワークシート】

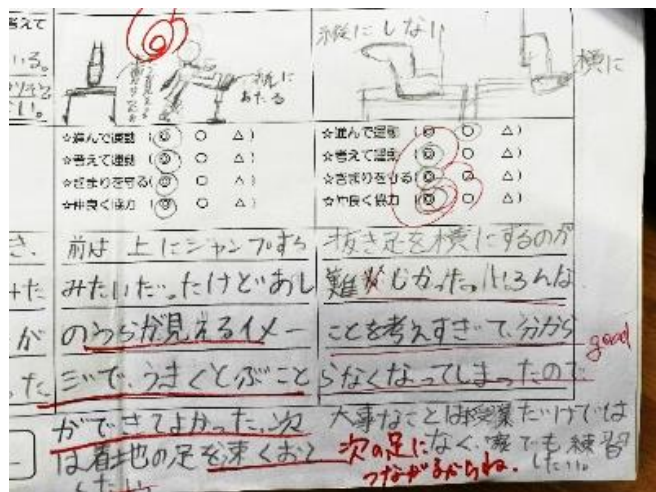
③ 陸上運動「ハードル走」の実践

ハードル走の学習において、毎時間動画の撮影を行い、自己の変容を確認させた。単元初めにNHK for schoolの「はりきり体育ノ介」を視聴させていたため、児童は手本となる動画と自分を

見比べながら自己の課題に気付き、改善をしようと進んで運動に取り組む姿が見られた。単元途中には、児童同士で互いの課題を指摘し合ったり、改善点を称賛し合ったりする姿も見られるようになり、自己の技能の向上だけでなく、他者の課題に気付き、助言し合いながら互いに高め合う姿も見られるようになった。



【学習後半のデータ】
振り上げ足がまっすぐ
低く伸び、抜き足も横
になっている。



【児童のワークシート】

6 成果と課題

(1) 成果

- 児童一人一人のタブレット端末に参考資料や動画を確認できるようにすることで、児童の学習進度や取り組む技能に応じて、児童が資料を選択することができた。また、いつでも資料や動画を見ることができたため、児童の理解や技能の向上に役立った。
- 単元を通してタブレット端末を利用したことで、児童自身が自己の変容を把握することができるようになり、技能獲得につながった。
- 児童同士で運動の様子を撮影し合うことで、互いに課題や改善した点について意見交換をする姿も見られるようになり、学び合いにもつながった。

(2) 課題

- コロナ禍のため、研究授業などが実施できず、体育科におけるタブレット端末の活用の有効性や学習資料を他の先生方と共有することが難しい。
- 撮影等タブレットの扱いに慣れていないと、時間がかかってしまい、運動量を確保しながらの体育学習が難しい。
- 資料の準備やタブレットの使用だけに終始することなく、教師自身が児童一人一人の状況をしっかり見取り、児童の向上的変容に粘り強く関わっていく必要がある。